

平成 24 年度第 3 回協働クロストーク！開催報告

- 1 日 時** 平成 25 年 3 月 23 日（土） 14：00～17：45
- 2 場 所** 社会福社会館 4 階 会議室
- 3 テーマ** いこいの里でこんなことができる！
- 4 参加者** 43 名（市民側 17 人、行政側 26 人。男性 23 人、女性 20 人。）
農業サークル 岩尾隆治、早川莞爾
環境教育研究所 竹中克月、西岡克浩
エコ名人を探せ塾 佐藤恵
ちゃんぽん学校 小田崇文、森美智子
ジュニアリーダー『空』 梶聖悟
四季美 八田和美、五十川商司、池田博、長谷川勝也
うんすんカルタ長崎ロバイ 飯谷敬子
NPO 法人華かご 齊藤大策、齊藤とも子
ながさき双六の会 武次和正
市民力推進委員 河村規子
もってこい長崎レクリエーショングループお手玉の会
中島るり子、村上幸子、濱田信子、秋山由紀江、
松尾京子、岩本紀美
長崎グリーンヘルパーの会 前川文雄
More Discussion Club 森木いちな
農林整備課 田中通孝、村本定男、楠本隆記、武田智、小野寺明
都市経営室 中川正仁、松尾美香、宮田佳和、松島健児
総合企画室 向井逸平
地域コミュニティ推進室 篠崎桂子
財政課 山本勉
秘書課 小森優子
市民協働推進室 原田宏子、生駒太一、佐々田隆子、吉岡利章
- 5 狙い・目標** (1) 現在実施しているいこいの里の事業について
① 市民ニーズに合っているのか
② もっとほかの手法はないのか などのアイデアフラッシュ
(2) いこいの里の活性化に一緒に取り組んでくれる団体とつながる

6 当日の流れ

- 14:00~14:20 オープニング
- 14:20~14:30 各グループ自己紹介
(所属、名前、今一番はまっていること)
- 14:30~14:50 いこいの里から説明
- 14:50~15:30 各グループでの意見交換
① 事業の説明を聞いて感じたこと
- 15:30~15:45 各グループで出た意見の共有
- 15:45~15:50 休憩
- 15:50~17:30 各グループでワーク
① いこいの里でこんなことができる！ こんないこいの里だ
ったらいってみたい！
ポスターセッション 各グループの企画案を見て回る
コーディネーター解説、ふりかえり
各グループでのふりかえり (参加してどうだったか)
- 17:30~17:45 クロージング

7 各グループのフリートークで出た主な意見

◆ 新たな企画・アイデア

- 家族連れ向けのイベント
- 雨の日、雪の日に何が出来るか ⇒ 囲炉裏などおいてみては。ソリを使った遊び
- 市民の記念樹で里山をいっぱいにしては。
- 夜の時間あける。⇒ キャンプ。星がきれい
- グリーンツーリズムのスポットに。
- 女子はレストラン、カフェが好き。
- 1日過ごせる体験プログラム
- オリーブ、ブルーベリー畑とかいいかも。
- エリアごとに名前をつけて整備しては。ex ピーターパンの森
- 対象を子どもに絞って
- ビオトープの辺りに宿泊施設を。
- 山歩きのガイド育成
- 市民農園

◆ いこいの里全般について

- 昔の何もないイメージを取り払う⇒
- あぐりの丘は知られているが、いこいの里は知られていない。まぎらわしい。
- 里山があってビックリ
- 棚田はあまり知られていない。
- 犬、ハタが禁止されているのはなぜ。
- 交通の便が悪い。

- 里山体験のためにトイレ整備（バイオトイレ、太陽光を使って）
- 自然の楽しさの体験だけじゃなく、発信も
- 体験メニューが多くてビックリ
- 体験メニュー当日参加OKにしてみても
- 保育園の園芸体験をもっと増やせないか
- 1年間のスケジュールを検索できるように
- 園内の移動はけっこう大変
- 「里山」に興味はあるが、行くのがきつい

8 参加者の感想・気づき

◆市民側

- 具体的な案がいっぱい出て、自分たちがやる！という意見も多く出ていた。市民の力と行政の力が重なって、不可能が可能になるということがわかった。
- みんなで話せば、思いもかけないようなアイデアがたくさん出ることがわかった。
- 今回出たアイデアをいかに深くして、具体化していくかが大切。
- 今回参加したメンバーを入れて、プロジェクトを組んで、具体化してもらいたい。
- あぐりの丘を何とかしなくてはもったいないとずっと思っていたので、今回、自分の考えをいうことができたので、参加してよかった。
- 新しい出会いがあった。
- みんなで意見を出してまとめ、解決方法まで考える作業が楽しかった。
- 市民のアイデアを出してみんなのあぐりの丘を作るというまとめが良かった。
- 皆さんの意見・発言が多くびっくりした。これを行政がどのように対応していくかが問題。
- “つくる”って楽しいな。
- “市民がつくるあぐりの丘”が楽しみ。
- ひとつのことを共有してみる楽しさと違う思いを知ることで勉強になる。
- これまで昼間の活用しか考えたことがなかったが、夜間の活動のアイデアの発言にそうか！と思った。
- 自分で考える機会を持て、多くの人と関わってよかった。
- 参加者の意見やアイデアは共通点が多くあった。
- これだけいこいの里について熱く語れる市民が最低40人はいるのだから、利用しない手はない。
- 思いは一つ。後はいこいの里を市民に知ってもらって、一緒に楽しい場所にしよう。
- 市の職員の努力が伝わった。
- 問題意識の高い人たちの様々な意見・アイデアにふれたことは、大変貴重な体験だった。
- 3時間半があっという間に終わった。
- 1つの課題に対して、年齢も立場も全く違う人が集まり、意見を出し合うことで様々な可能性が見えてきた。自身の活動にも活かしていけそうで、とても勉強になった。
- これからも微力ながら里山再生に協力していきたい。

◆行政側

- 皆さんが色々なアイデアを持っていて、それが合わせることでまた新しいことが出てきたりして、これからは“市民の力で”というのが、大切なことだと感じた。
- 市役所がしている事業は意外と…やっぱり知られてないんだな。
- 何かに関わって自分のことのように考えて行動することで、“気持ち”が生まれる。このような機会の大切さを毎回感じる。
- 「市の財産は市民の財産」このことをみんなで意識したいですね。
- 自分では思いつかないような“なるほど！”がたくさん見つかった。
- 前向きに意見を出し合うことの楽しさを感じた。
- 自分にもできるのでは？自分でやりたいと思える事業をぜひ実現させられたらと思った。
- 実際に利用する方々と多くのアイデアを出すことができたことがよかった。
- いこいの里に関わる職員・市民の熱さを感じた。
- 日頃から運営に関わっている市民の意見は説得力があって、実行に移しやすいものが多いと感じた。そのアイデアを拾う場がもっと必要。
- やはり多くの意見を聴くことの大切さを感じた。
- 行政の考え方だけでは、ダメ。何が一番求められていて、どのように解決するかをみんなで考える。
- 色々な方の意見が聞けて、役所の机の上では、思いつかない発想もあって、とても楽しく今後の仕事に活かせそうと感じました。
- 年齢や活動内容の幅が広いグループで話し合えたことはよかったと思う。
- 市職員として、今回のアイデアがどうしたら実現するか考えていきたい。市民としても団体の活動に参加したい。

- 知らない間に自分の頭が固くなっていたのに気付かされた。
- 普段も来園者から意見をいただくことがあるが、今回は、提案だけでなく、課題、解決策まで意見をもらえた。
- 市民ニーズとは、行政が考えつかなかったこと（頭がカタイ）、あんまり気乗りしたくないこと（お金がない）であることがわかった。
- 運営は民間にまかせたほうがいい
- 耳が痛い点もあったが、別の視点が聞け、発見があった。

9 当日の様子

会場の様子



担当課からの説明



グループワーク



ポスターセッション



グループワークの結果

